

公益社団法人水戸青年会議所

2023年度理事長所信

公益社団法人水戸青年会議所
第71代理事長 樫村 晶洋

スローガン

れいめい
「黎明」

～未来（ゆめ）ある新時代の幕開け～

基本理念

個々が輝き

魅力溢れる人財による

未来ある水戸の創造

基本方針

- 1・共創の輪が広がるまちづくり
- 2・創造力と統率力に溢れるひとづくり
- 3・ひとをつくるガバナンス体制から厳格な組織へ
- 4・未来を担う魅力ある人財育成
- 5・プレゼンスのある健全な組織の確立

【はじめに】

我々は、戦後荒廃した日本が再建され、国民の生活水準が向上し、夢や希望に満ち溢れた時代に生まれました。私が生まれた1985年は、携帯電話の始まりであるショルダーフォンが発売された年にあたります。生まれた時から物に溢れ、当たり前のように寝食し、学校へ通い、何不自由のない生活を送ってきました。この恵まれた時代に至るまで、諸先輩方が多くの苦難や困難を乗り越えてきたことは言うまでもありません。

1953年11月6日、高い志を持った38名の青年によって創立された水戸青年会議所は、本年71年目を迎えます。昨年、大きな節目となる創立70周年を迎え、我々は今後の運動を更に力強く推進するための新たなビジョンを掲げました。諸先輩方が紡いできた、この青年の学び舎で、様々な機会の提供や成長の場をいただいていることを忘れず、これまでに関わっていただいたすべての人々に感謝の心を持ち続け、市民・行政・地域企業・他団体とより強固な関係を築きながら、夢と理想をもって描いた「水戸」を創ってまいりましょう。

近年、我々の生活は、新型コロナウイルスという未知の感染症により、「ひと」や「まち」との距離が遠のき、新しい生活様式を強られることになりました。これに伴い、急速にオンライン化が進み、一部の生活において便利になった一方、日常では対面でのコミュニケーション不足により、人間関係が希薄になったと感じます。真の人間関係の構築は、オンラインでは難しいということを知りました。ひとづくり、まちづくりを運動の基本としている我々は、これからもまちのことを思い、「ひと」と繋がり、対話し、地域になくはならない団体を目指さなければならないのです。

経験を通じ得たものは必ず自分の中に蓄積され、

活動を通じ出会った「ひと」との繋がりはかけがえのない財産となる。

大切な「ひと」が住み暮らす地域のために、

成長の機会が溢れる青年会議所を疑うことなく活動しよう。

限られた時間しかないのだから・・・

【共創による希望溢れるまちづくり】

近年、水戸駅周辺の環境が変化しており、南口では、歴史・自然の特色を有した市内随一の観光資源である偕楽園公園までの道路整備が進み、北口では、新たに市民が集う場として新市民会館が建設されており、その周辺エリアの愛称が「M i t o r i O」に決定するなど賑わいをみせています。しかし、この地域資源を有効的に活用させる取り組みはどのくらいされているのでしょうか。我々は、住み暮らす水戸のまちにおいて、これまで様々なまちづくり事業を展開し検証を繰り返して参りましたが、近年、その経験を基に行政や地域に向けて我々の想いや考えを明確に発信出来ておりません。我々が目指す未来を創造するためには、未来を見据え、青年会議所らしい観点でまちづくりの実践を行い、行政や地域に向けて社会実験ができるような提言を行っていかねばならないのです。

2020年から新たに我々の活動エリアに加わった大洗町は、水と自然に恵まれた歴史・文化、そして様々な観光資源を有する魅力あるまちです。社会構造の変化や人口減少などの諸問題がある中、観光振興に取り組み、地域経済を活性化させてきましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により観光地としては深刻な状況であると考えます。行政や他団体・地域企業との連携を図り、新たな価値を創出し、再び交流人口を増加させ、地域住民が持続的に経済と文化を活性化させる、未来を見据えた運動を展開して参りましょう。

【創造性を育むひとづくり】

青年会議所の根幹にあるひとづくりの精神は、より良い「まち」を創り出すという大きな目的のためにあります。急速に社会情勢が変動する中、様々な課題に対して主体的に対応できる能力を育むことが不可欠となっています。

昨年、70周年記念事業を開催し、地域に住み暮らす市民や企業の課題を解決し、自ら創造性をもち、地域の課題に対して行動する人財が溢れる共創社会を創るために、「MITOプラットフォーム」を構築しました。今後も、地域の「ひと」と繋がるツールを有効的に活用し、地域に住み暮らす利用者を増やすために常にブラッシュアップをしながら運営していく必要があります。

現在、少子化が進み、教育に及ぼす影響として、子供同士で切磋琢磨する機会が少なくなっていることや親の過保護・過干渉により、成長や自立に不可欠な経験が得られにくいことなどが指摘されています。創造性豊かな人財を増やすために、感動と活力ある教育を推進し、多様な体験型の学習や対話型の学び合いの場を創出し、自ら工夫・創造する力を育て参りましょう。

水戸青年会議所の継続事業となっている交通安全啓蒙活動を主軸とした「ちびっ子広場」ですが、進化し続ける日本の開発技術や交通安全意識の醸成など様々な努力により、交通事故死亡率は減少の一途を辿っています。このように環境が変化しているのであれば、我々も新たな手法を考え、実践していかねばなりません。運営においても、企業や行政からの補助に頼るのではなく、公益法人として収益性を加味しながら持続可能な事業へと変化さ

せていく必要があります。地域に住み暮らすすべての「ひと」を対象に、地域の子供たちを守っていく新たな活動を展開していきましょう。

【社会的価値を高める人財育成】

テクノロジー、ビジネス、社会構造、価値観、生活様式などの常識が、時代と共に変化し、多様化する時代になった今、過去の基準や価値観でリーダーシップを発揮し続けることは可能なのでしょうか。時代の流れが急速に変化すると共に地域が求めるリーダーも変わっているのではないのでしょうか。

我々は、日常生活を一步踏み出し、新たな「ひと」と出会う機会を沢山持ち、様々な価値観やロールモデルを学び、多様性を尊重しながら、「あの人になら任せられる」という社会的信頼を得ることが重要であり、リーダーシップを発揮するには、このような「社会的価値」を維持することが必要なのです。そして、地域から信頼される団体として存続し続けるためにも学び続けるしかありません。これからの時代に通用するリーダーとなるための土台作りをしていきましょう。

【ガバナンス強化による強固な組織運営】

水戸青年会議所は、諸先輩方が長きにわたり高い志を持って運動を展開しながら、厳しい中にも「ひと」として大切な規律や教えを継承しているからこそ尊敬される団体として存在し続けています。しかしながら、その規律や教えも継承される意味を理解しなければ本質を失い、紡がれなくなってしまいます。組織は「ひと」で構築されており、常に質の高い環境の中で切磋琢磨しながら一人ひとりの能力を高めていける組織運営が必要です。

青年会議所は会議が基盤となり、様々な運動をおこなっています。ガバナンス強化を伴う組織運営と効率的な諸会議運営を円滑に執り行うことで、能動的な人財育成、組織強化へと繋げ、運動の効果を最大限に引き出すことが可能になるのです。地域を牽引する団体だからこそ改めて行動を見詰め直し、厳格な組織として存在し続けましょう。

【魅力ある組織の会員拡大と人財開発】

近年では、会員数の減少が日本全国の青年会議所における共通課題となっており、我々も会員確保は重要な課題となっています。持続可能な組織として存続していくためには、会員の拡大はもちろん必要ですが、新たに入会する仲間が住み暮らす地域について真剣に考え、地域の特性を生かし、国際的な視野を持つ人財創出に取り組むことで、未来を見据えたまちづくりに貢献できる人財へと急速に変化することが重要であります。そして、その機会を経験し創出された人財が、次代を担う我々の新たな仲間になることを求めて活動をして参りましょう。

地域の中にも多種多様な団体が立ち上げられ、青年会議所の存在感が薄れてきていることは否定できません。今まで以上に魅力ある団体としてその存在価値を高め

ていく必要があります、そのためには、まず内部の組織力向上が必須と考えます。そのうえで、地域に向けての運動や活動を様々な手法で効果的に発信していくことで、我々の運動が市民から共感され水戸青年会議所のブランディングに繋がり、多様性に富んだ人財で溢れる組織となっていくのです。

【ガバナンス強化のためのコンプライアンスの構築】

昨今、コンプライアンス違反については厳しい世の中になっており、組織のガバナンスを強化するには外部に対してはもちろんですが、内部のコンプライアンス強化にもしっかり取り組まなければなりません。しかし、組織の中での確立された規則が浸透していなければ遵守されることはないのです。強靱な組織を継続させるには財政基盤の強化はもとより、新たな規則の構築と青年経済人としての人的資本を高めるために、学び続けることが必要なのです。

また、我々は公益社団法人として公に寄与する団体として活動しております。2014年に公益法人格を取得し、年月が経つにつれ、当時の公益法人格を取得するに至った経緯や公益法人としての存在意義を明確に把握しているメンバーは少なくなっています。急速に変化し続ける時代だからこそ、永続的に青年会議所活動を行っていくためにも、時代に合った運動や活動に適した法人格を模索し続けることが大切なのです。

【自ら求める成長の機会】

青年会議所の活動の中で数々の例会や事業が行われ、その一つひとつに思いがあり、意味があり、学ぶ機会があります。青年会議所に入会する理由は人それぞれあると思います。しかし、どんな理由にせよ入会を決めたのは自分自身であり、その組織が更なる飛躍をするために、日本青年会議所、関東地区協議会、茨城ブロック協議会にて行われる事業に積極的に参加し、様々な青年会議所メンバーと交流を深め情報交換を行い、自己成長に繋げ、LOMに持ち帰ることが重要であります。

また、我々のもつ友好関係は国内にとどまらず、台湾の嘉義国際青年商會とも2017年に姉妹締結を結び、現在に至るまで交流を続けております。しかし、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響もあり、近年、対面での交流は叶っておりません。国際的な人財となるべく仲間となった同志とより交流を深め、地域にも国際交流の機会を創出していきたいでしょう。

我々は組織力を高めるために、例年多くの出向者を輩出しております。出向先には、志を高く持ったメンバーが集まり、多くの学びや気づきが存在します。LOMの代表として出向する仲間を支援することは、組織の団結力をより深め、出向者と共に成長が出来るチャンスでもあります。自分自身を磨き成長させることで、水戸青年会議所の運動をより活性化させ、延いては「水戸のまち」をより豊かにすることに繋がるのです。

【終わりに】

「ひと」の成長は取り巻く環境によって大きく左右され、多くの「ひと」と出会うことにより、新しい価値観が生まれます。入会前は、青年会議所に対してマイナスのイメージしかなかった私が、気が付けば積極的に参加し、沢山の「ひと」と出会い、自分とは違った価値観をもったひとと接する中で、気付きや学びを得ることができました。時には自分と比較し、焦りを感じ、さらなる高みを目指して努力をしてきました。

入会間もなく参加した全国大会にて、全国大会を誘致するためのスピーチを聞いたことがあります。その挨拶に心が震え感動したのを今でも覚えています。つまり、青年会議所には人の心を動かす力があります。一生懸命に取り組む姿勢、気持ちのこもった発言、それ自体も素晴らしいことであり、相手の心を動かす重要な要素なのです。その要素に志が宿った時、我々は地域から必要とされる団体になれると確信しています。

誰かがやってくれると待つのではなく、我々が変革の起点となり、地域の輪の中心となる団体でありたいと願います。70年以上も続く団体に所属する我々には、歴史という実績があります。行っている活動や運動、所属する団体に誇りを持ち、志を胸にさらなる地域発展に向けて挑戦し続けましょう。

地域を想い

志を胸に秘め

「ひと」の気持ちを動かす

そんな人財でありたい